

三重県桑名市における 「地域の薬剤師会と連携した 服薬指導の取組」

～桑名市健康お薬訪問相談事業～
概要

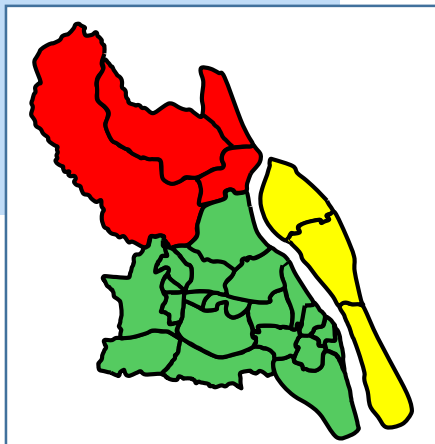
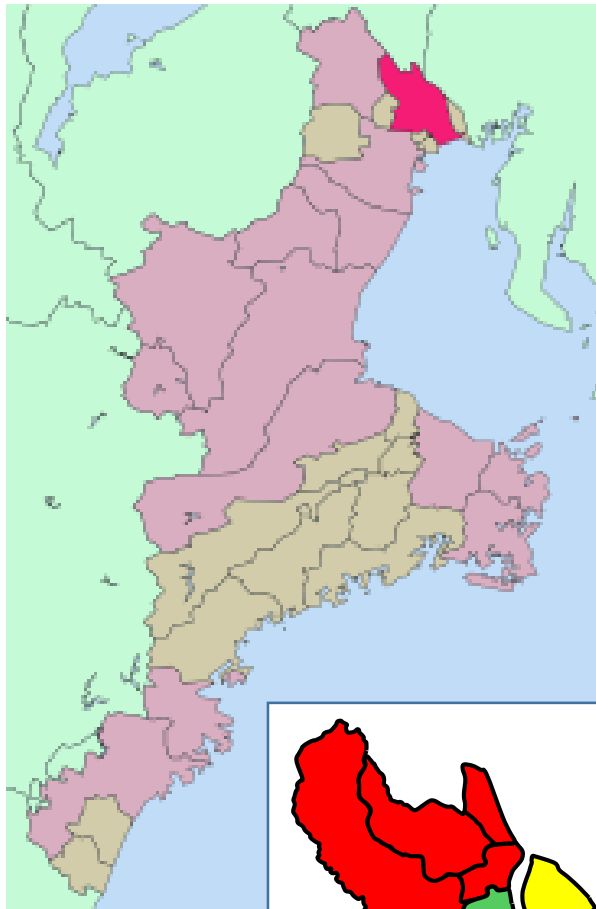
桑名市役所 介護高齢課 介護予防支援室

内山 久嗣



桑名市
イメージキャラクター
「ゆめはまちゃん」

「桑名市」の概要



総人口	142,951人
面積	136.68km ²
世帯数	57,919世帯
65歳以上人口	35,851人
75歳以上人口	16,943人
高齢化率	25.08%
要介護・要支援認定率	14.11%

(平成29年3月末現在)

平成16年12月に
旧桑名市・多度町・長島町が合併

「桑名市」を紹介します①

旧東海道伊勢国一の鳥居
「七里の渡跡」



「その手は桑名の焼き蛤」



桑名

「なばなの里」



全国アミューズメントパーク
入場者数第3位
「ナガシマリゾート」



旧東海道42番目の
宿場町桑名の銘菓
「安永餅」



全国で3路線のみのナローゲージ
「北勢線」

名古屋駅より、JR関西本線・近鉄名古屋線で約25分、
東名阪自動車道経由で約30分。
中部国際空港より、伊勢湾岸道経由で約1時間。

鹿鳴館で有名な
ジョサイア・コンドルの設計による
山林王・ 諸戸家の邸宅「六華苑」



人馬一体となって
絶壁を駆け上がる
「多度上げ馬神事」



日本一やかましい祭
「桑名 石取祭」



お伊勢参らばお多度もかけよ、
お多度かけねば片参り
「多度大社」

「桑名市」を紹介します②

「2016年ジュニア・サミットin三重」が桑名市で開催されました！！



4月22日から4月28日まで開催
(ナガシマリゾートにて)

ジュニア・サミットとは、サミットに附帯して、G7各国(日本、カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、イギリス、アメリカ)を中心とする世界中の中高生が世界の問題について話し合う国際交流事業です。

貧困や気候変動など、若い世代にかかわる問題の解決のための提言を行います。

なお、ジュニア・サミットが日本で開催されるのは、2008年の北海道千歳市に次いで2回目となります。



2日目「クワナナイト」での「くわな石取祭」体験の様子(なばなの里にて)

「桑名市」を紹介します③

「くわな石取祭」がユネスコ無形文化遺産に登録されました！！



ユネスコ無形文化遺産登録決定の様子
(桑名市石取会館にて)

石取祭は、江戸時代初期に始まったといわれ、桑名城下の町人や藩士が楽しみにしていた初夏の祭りです。平成19年3月に国指定重要無形民俗文化財となりました。

祭車と呼ばれる山車は、43台あり、これほどの山車が一堂に会する祭りは全国的にも非常に珍しく、国指定重要無形民俗文化財のなかでは日本最多を誇ります。



鉦や太鼓を打ち鳴らし、「日本一やかましい祭り」と言われています(春日神社桜門前にて)

「桑名市」を紹介します④



日本酒

細川酒造 株式会社



牛肉

株式会社 柿安本店

蛤



株式会社 マルヨシ水産

桑名市の「ふるさと納税」

※画像は一例です他にもいろいろなものがあります。



桑原鋳工 株式会社

ナガシマ
リゾート



長島観光開発 株式会社

はちみつ



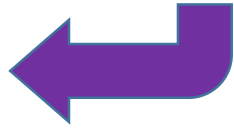
株式会社 館養蜂場本店

鋳物

「桑名」市政の特徴



桑名ブランドロゴマーク



桑名ブランドキャッチフレーズ

他ではまねできない、桑名ならではのたくさんの“本物”を見つけ出し、磨き上げ、より素晴らしいものにしていく力を「本物力」と名付けました。木曾三川が流れ込む桑名を桑名城の形状であった扇の要と見立てたイメージ等を桑名のイニシャルである「K」のマークで表現しました。

本物力こそ桑名力

○桑名市の将来像を実現するための7つのビジョン

- 1 中央集権型から全員参加型の市政に
- 2 命を守ることが最優先
- 3 こどもを3人育てられるまち
- 4 世界に向けて開かれたまち
- 5 地理的優位性を活かした元気なまち
- 6 桑名をまちごと「ブランド」に
- 7 納税者の視点で次の世代に責任ある財政に

桑名市の「介護予防・日常生活支援総合事業」

「サポーター」の「見える化」・創出

「えぷろんサービス」

シルバー人材センターの会員が訪問による掃除、買物、外出支援、調理、洗濯、ゴミ出し、話し相手等を提供。

「おいしく食べよう訪問」

食生活改善推進員が訪問による食事相談、献立相談、調理相談、体重測定等を提供。

「『通いの場』応援隊」

ボランティアが日常生活圏域の範囲内で「シルバーサロン」又は「健康・ケア教室」の利用のための移動支援を提供。

「短期集中予防サービス」の創設

「栄養いきいき訪問」

管理栄養士が訪問栄養食事指導を提供。

「お口いきいき訪問」

歯科衛生士が訪問口腔ケアを提供。

「くらしいきいき教室」

リハビリテーション専門職がアセスメント及びモニタリングに関与しながら、医療・介護専門職等が通所による機能回復訓練等と訪問による生活環境調整等とを組み合わせ一体的に提供。

従前の介護予防訪問介護に相当する訪問型サービス
(平成27～29年度)

従前の介護予防通所介護に相当する通所型サービス
(平成27～29年度)

「通いの場」の「見える化」・創出

「シルバーサロン」

「宅老所」等において、地域住民が相互に交流する機会を提供。

「健康・ケア教室」

事業所において、地域交流スペース等を活用するとともに、医療・介護専門職等とボランティアとで協働しながら、介護予防教室を開催するなど、地域住民が相互に交流する機会を提供。

「健康・ケアアドバイザー」

地域住民に開放される「通いの場」を対象として、地域住民を主体として運営された実績に応じ、リハビリテーション専門職等を派遣。

「地域生活応援会議」を活用した「介護予防ケアマネジメント」の充実

- 桑名市地域包括支援センターにおいて、桑名市と一体になって、要介護・要支援認定又は「基本チェックリスト」該当性判定の申請及びそれに関する相談を受付。
- 桑名市地域包括支援センターにおいて、桑名市と一体となって、「地域生活応援会議」を活用して「介護予防ケアマネジメント」を実施。

「エビデンス」に基づく健康増進事業と一体的な介護予防事業の展開

- 「桑名市日常生活圏域ニーズ調査『いきいき・くわな』」に基づくデータ等を活用。
- 「桑名ふれあいトーク」、「桑名いきいき体操自主グループ活動スタート応援事業」等を実施。
- 「高齢者サポーター養成講座」、「桑名いきいき体操サポーター養成講座」等を開催。
- 「桑名市介護支援ボランティア制度」を実施。

「地域生活応援会議」(平成29年6月21日)の様相①

サービス担当者

介護支援専門員協会

言語聴覚士

管理栄養士

理学療法士

生活支援コーディネーター

薬剤師

作業療法士

介護支援
専門員

司会
(介護予防
支援室長)

担当
地域包括
支援センター

社会福祉士

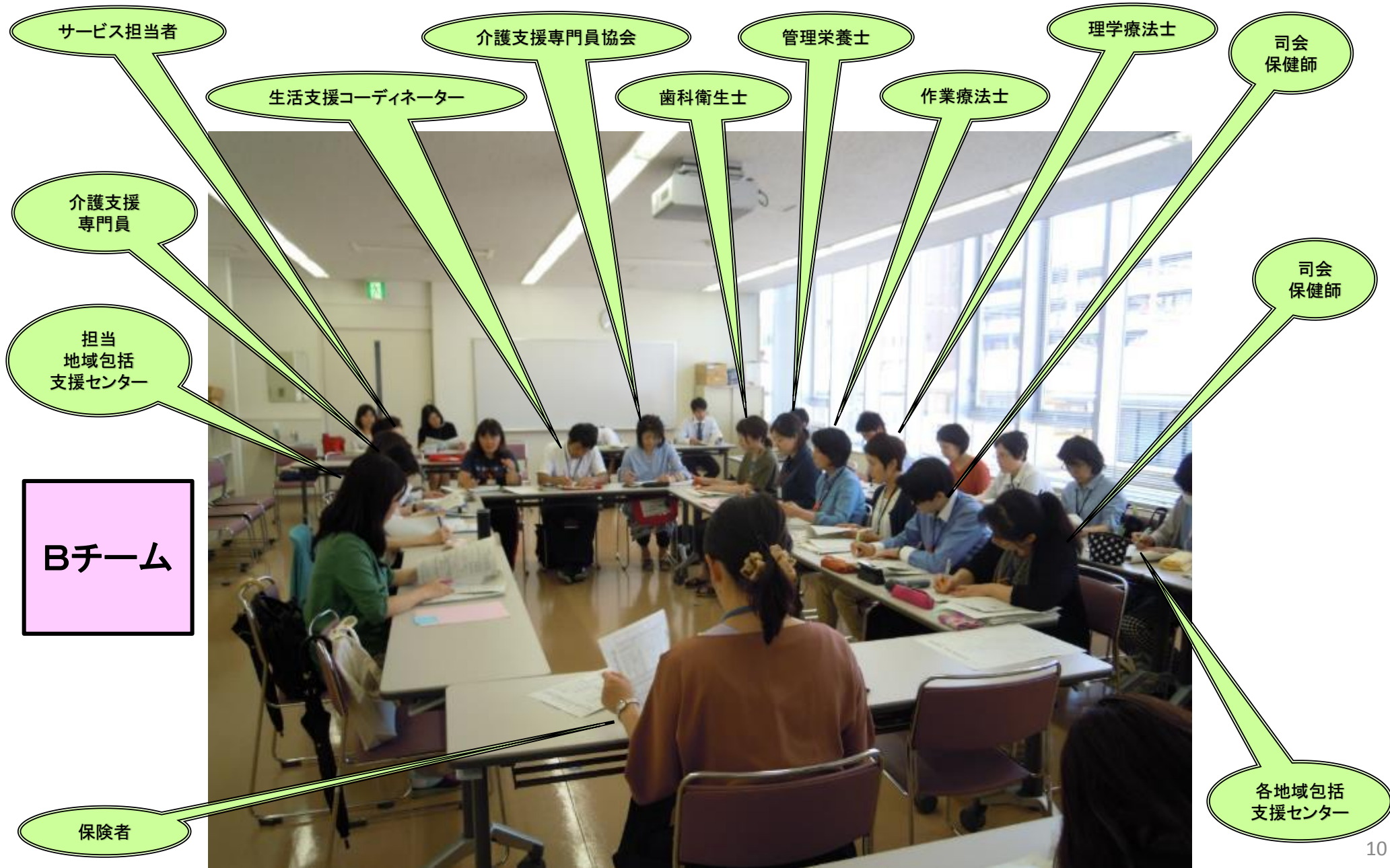
Aチーム

保険者

各地域包括
支援センター



「地域生活応援会議」(平成29年6月21日)の様相②



モデル事業を開始するにあたって①

高齢者の低栄養防止・重症化予防等の推進

平成28年度要望額 10.7億円

経済財政運営と改革の基本方針2015(平成27年6月30日閣議決定)

(インセンティブ改革)

民間事業者の参画も得つつ**高齢者のフレイル対策を推進する。**

(公的サービスの産業化)

民間事業者も活用した保険者によるデータヘルスの取組について、中小企業も含めた企業による健康経営の取組との更なる連携を図り、**健康増進、重症化予防を含めた疾病予防、重複・頻回受診対策、後発医薬品の使用促進等**に係る**好事例を強力に全国に展開する。**

概要

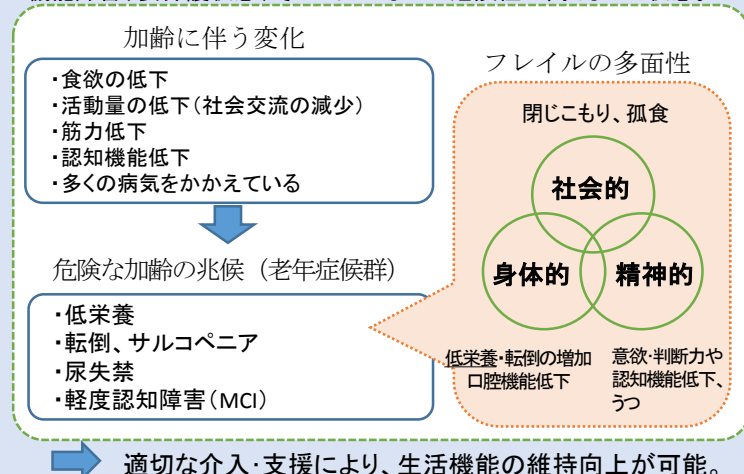
- 低栄養、筋量低下等による心身機能の低下の予防、生活習慣病等の重症化予防のため、高齢者の特性を踏まえた保健指導等を実施。
- 後期高齢者医療広域連合において、地域の実情に応じて、地域包括支援センター、保健センター、訪問看護ステーション、薬局等を活用し、課題に応じた専門職(管理栄養士、歯科衛生士、薬剤師、保健師等)が、対応の必要性が高い後期高齢者に対して相談や訪問指導等を実施。
 〈例〉 ・低栄養、過体重に対する栄養相談・指導 ・摂食等の口腔機能低下に関する相談・指導
 ・複数受診等により服用する薬が多い場合における服薬相談・指導 等

推進のための事業イメージ



(参考)高齢者の特性(例:虚弱(フレイル))

加齢とともに、心身の活力(例えば筋力や認知機能等)が低下し、生活機能障害、要介護状態、そして死亡などの危険性が高くなった状態。



背景

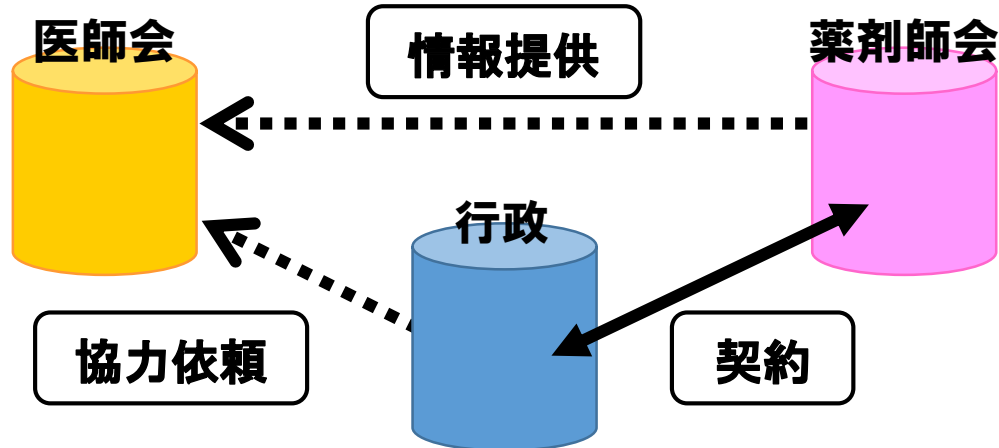
- 高齢者の薬物療法は、多剤投与や副作用の発生、服薬管理能力の低下等により、適正な薬物療法の実施が困難となり、重症化する症例が多く見られる。
- 適切な薬物療法の実施には、窓口での投薬業務に加え、服薬環境の把握が有用と考えられ、訪問による服薬指導を実施し、高齢者の重症化予防に努める必要がある。

目的

- ① 他科受診や多剤併用による重複投与の防止や副作用の早期発見。
- ② 服薬環境を把握し、服薬コンプライアンスの向上を図り、飲み残しを削減する。
- ③ 転倒リスクの高い高齢者に対して、転倒リスクを高める薬剤の変更・中止に関する情報提供を医師に行う。

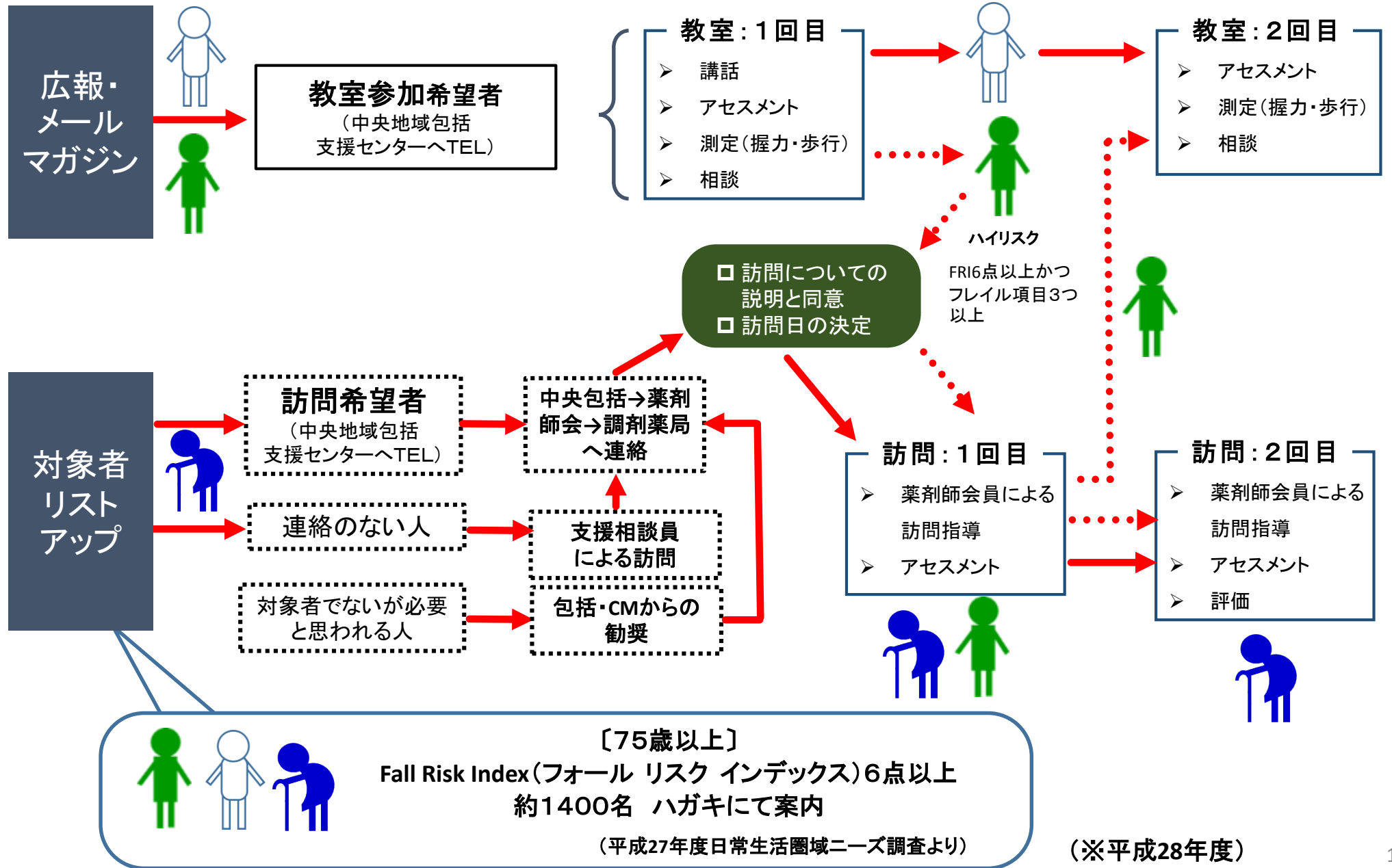
モデル事業の実施体制

- 事業を実施するに当たり、内容及び予算等を桑名地区薬剤師会と調整。
- 桑名地区薬剤師会と委託契約を締結し、実施。
- 桑名医師会には、事業開始前に説明に行き、協力を得た。
- 事業開始前、実施中においても調整のための会議を開催した。



「医・薬・行政」3つ
の協力体制！！

桑名市健康お薬訪問事業の流れ



対象者の抽出について

2つの条件を満たす人にハガキを送付

- ① 後期高齢者医療制度の被保険者
- ② 平成27年度の日常生活圏域ニーズ調査で、転倒のリスク該当者

○転倒のリスク該当者とは・・・

以下の5項目で、6点以上を転倒のリスク該当者としています

	はい	いいえ
この1年間に転んだことがありますか	5点	0点
背中が丸くなってきましたか	2点	0点
以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思いますか	2点	0点
杖を使っていますか	2点	0点
現在、医師の処方した薬を何種類飲んでいきますか	「5種類以上」:2点	

健康お薬訪問相談事業①



〔75歳以上〕
フォール リスク インデックス6点以上
約1400名 ハガキにて案内
(平成27年度日常生活圏域ニーズ調査より)

対象者
リスト
アップ

訪問希望者

(中央地域包括
支援センターへTEL)

中央包括
→薬剤師会

連絡のない人

支援相談員
による訪問

服薬指導が
必要と思われる人

包括・CM
からの勧奨

参加無料

健康お薬訪問相談 事業のご案内

高齢者の転倒リスク（危険）の原因の一つに薬の副作用が影響を及ぼすこともあると言われています。今回、国の補助金を活用し、薬剤師がお宅を訪問し、服薬状況によっては、飲み合わせや飲み残しなどの対策を助言する「健康お薬訪問相談事業」を行います。ぜひお申込みください。

訪問による相談をご希望の方は桑名市中央地域包括支援センターへお申込みください。



※このお知らせは、H27年ニーズ調査のお答えいただいた方のうち、75歳以上で転倒リスクの高い方に送付しています。

お薬に関する教室と薬・栄養・お口の相談会も開催します。詳しくは「広報くわな」をご覧ください。

連絡先 24-5104 (中央地域包括支援センター)

主催者
桑名市中央地域包括支援センター
桑名地区薬剤師会

<はがき>

健康お薬訪問相談事業②

内服薬

健康お薬相談教室のご案内

薬剤師がお薬との上手な付き合い方に関するお話をします。服薬状況によっては、飲み合わせや飲み残しなどの対策をアドバイスする個別の相談も行います。他にも簡単な身体測定や管理栄養士、歯科衛生士による相談をお受けします。ぜひお申込みください。

参加ご希望の方は
桑名市中央地域包括支援センターへ
お申込みください。



場所	1回目	2回目
多度すこやかセンター	平成28年6月30日	平成28年9月15日
長島ふれあい学習館	平成28年7月21日	平成28年10月27日
大山田公民館	平成28年8月18日	平成28年11月22日
桑名福祉センター (願申)	平成28年9月8日	平成28年12月8日
城南公民館	平成28年10月13日	平成29年1月19日
中央保健センター	平成28年11月17日	平成29年2月21日

時間 午後2時～4時

対象 市内在住の75歳以上の方

内容 薬剤師による講話

身長・体重測定、歩行速度測定、握力測定

薬剤師・管理栄養士・歯科衛生士による個別相談会

参加費 無料(同じ場所で2回実施します。)

持ち物 お薬手帳(お持ちの方のみ)

申し込み 電話で中央地域包括支援センター(24-5104)へ

申込期限 開催日の前日まで

※動きやすい服装でお越しください。



お問い合わせは中央地域包括支援センターへ

TEL 24-5104 FAX 27-3273

無料

健康お薬訪問相談

薬剤師がご自宅を訪問致します！ 75歳以上

薬剤師がご自宅に訪問して
お薬のお悩みをお聞きしたり、
飲み合わせを確認します



お薬の整理の仕方や
飲み忘れ防止のほか、
健康アドバイスも行います



お薬についてお困りなことがありましたら、ご連絡ください。

※本事業は桑名市にお住いの75歳以上の方を対象としています。
※すでに薬剤師が訪問している場合は対象外となります。

実際の流れ

ご相談申込

訪問日時の決定

薬剤師の訪問

中央地域包括支援センター
に申し込みください。

薬局より訪問日の
打ち合わせの連絡。

ご相談内容から
改善案を考えます

連絡先 24-5104 (中央地域包括支援センター)



主催者
桑名市中央地域包括支援センター
桑名地区薬剤師会

※桑名市健康お薬訪問相談事業として、国のモデル事業で行っています。



○ 抽出方法

- 転倒リスクに着目したが、多剤併用との因果関係を立証することは難しかった。
- 薬学的な観点から多剤併用による有害事象の軽減や高齢者に対する薬物治療の適正化等に着目する。
また、KDBシステム等の活用を検討。

○ 周知方法

- ハガキ、チラシ、広報誌、メールマガジン等で周知したが、利用者数は低調であった。
- 複数の媒体を引き続き活用しつつ、「通いの場」、「宅老所」での説明等を実施する。



三重県桑名市における

「地域の薬剤師会と連携した服薬指導の取り組み」

～桑名市健康お薬訪問相談事業～

結果と考察

桑名地区薬剤師会

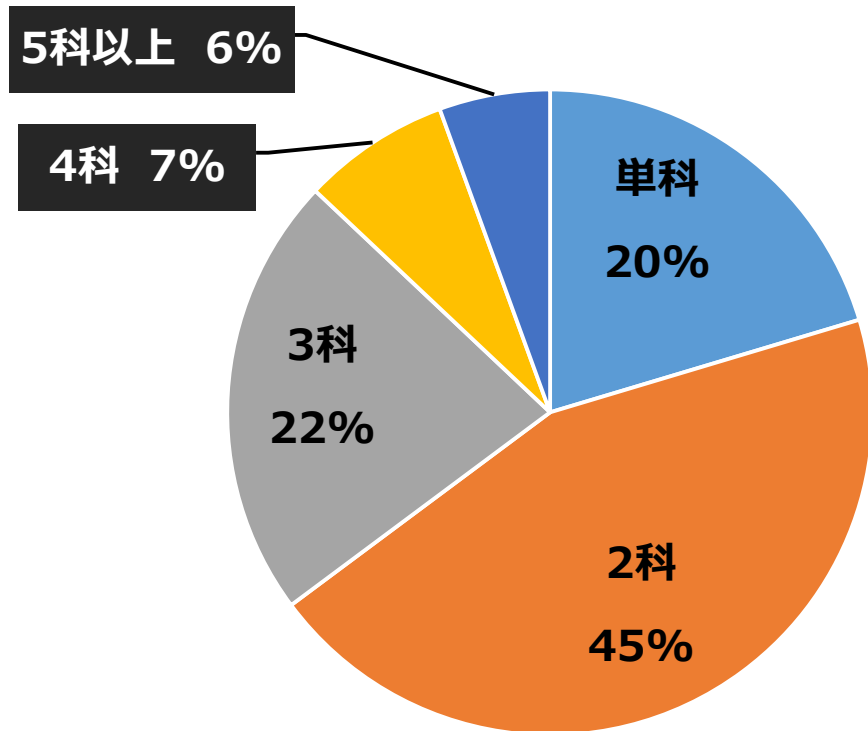
村上 佳人

結果

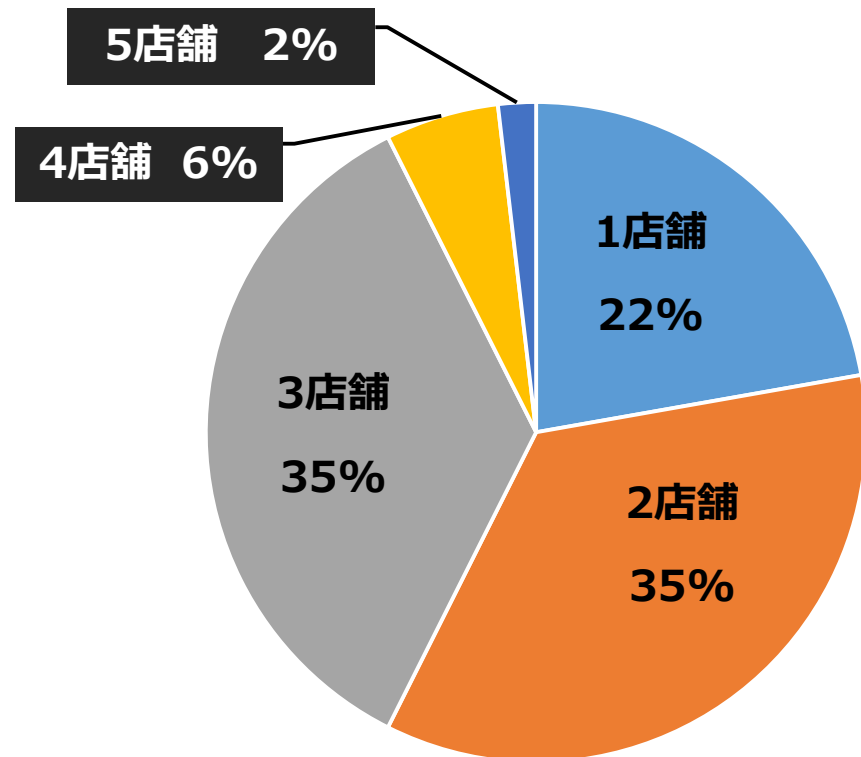
期間：2015年7月～2015年12月（6ヶ月間）

対象者：54人/1500人（3.6%） ⇒課題

対象者の受診科数



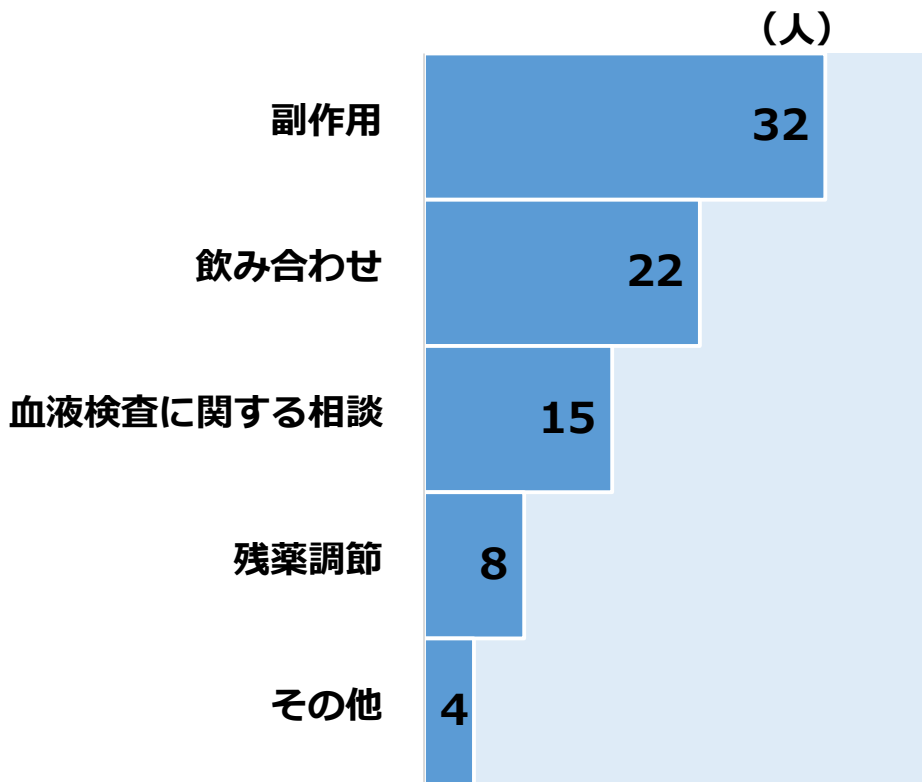
利用薬局数



訪問時の相談内容・服薬に関する問題点

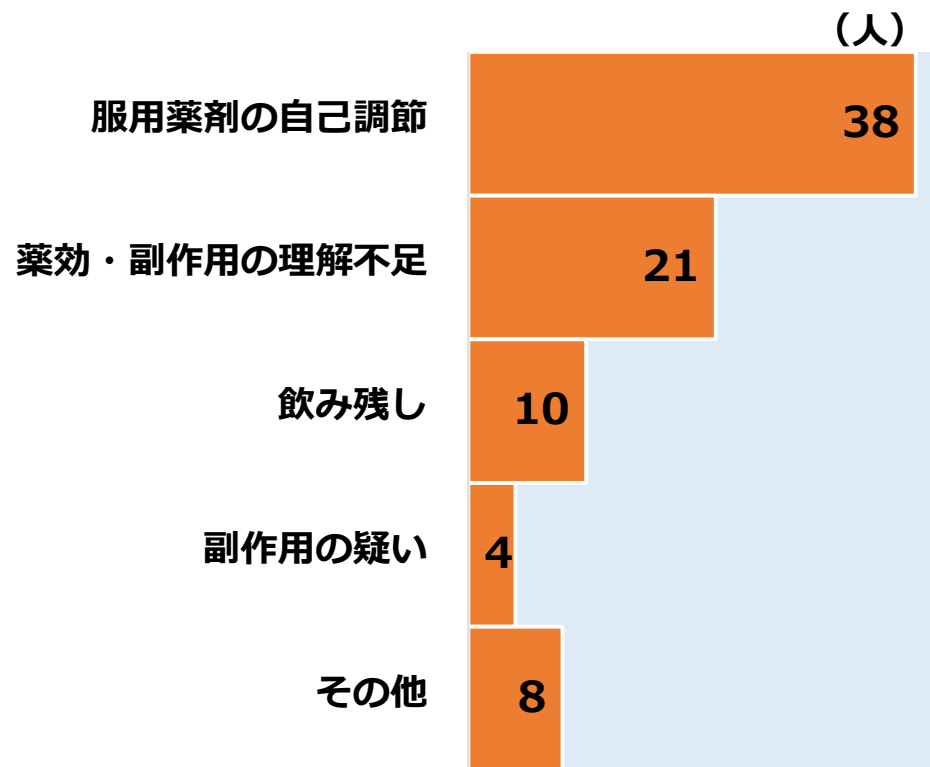
訪問時の相談内容

(複数回答可とした)



服薬に関する問題点

(複数該当あり)

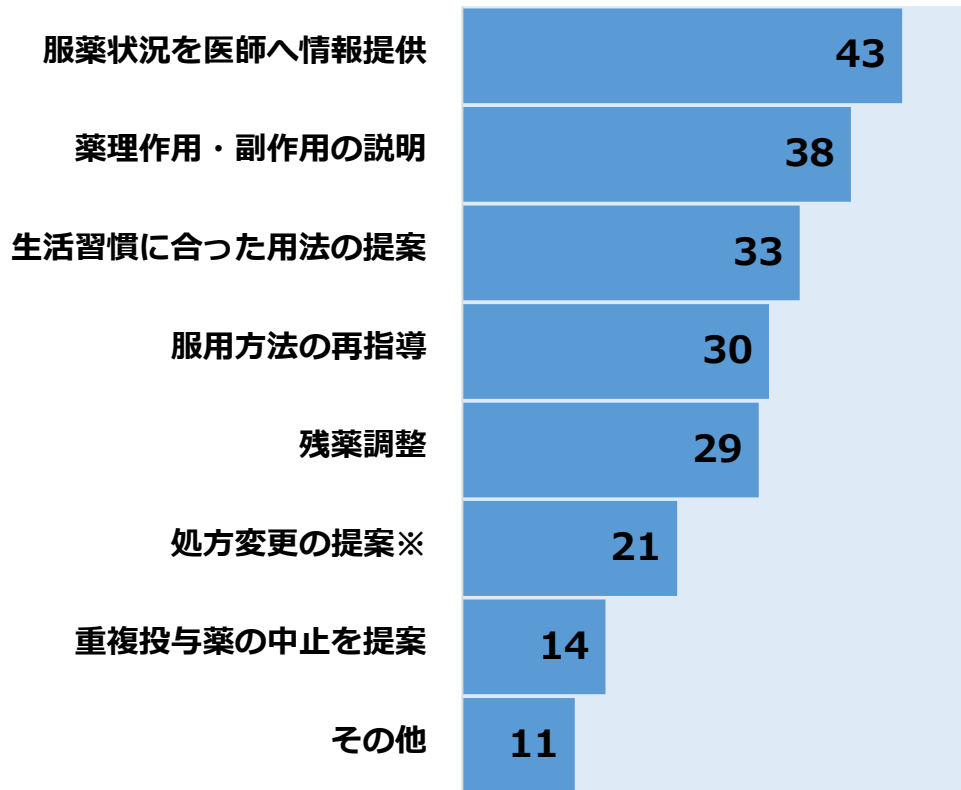


- ・ 相談内容：副作用や飲み合わせに関する相談が多かった
- ・ 問題点：服用薬剤の自己調節を行っている
薬効・副作用を理解していない

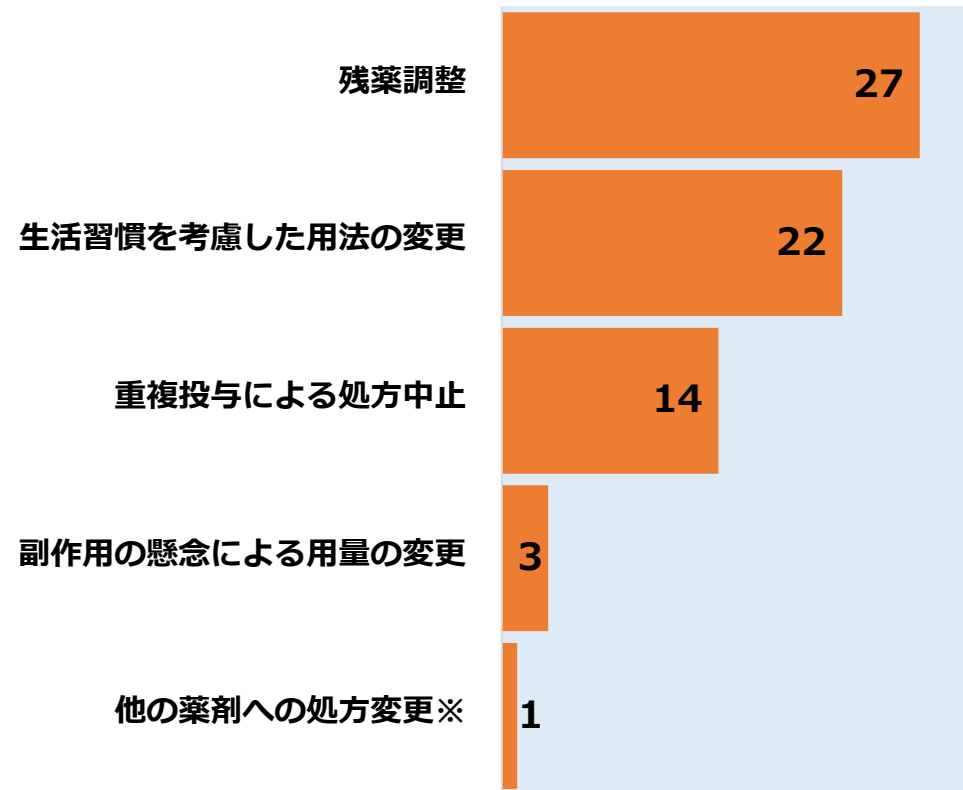
薬物治療に
対する理解度が
低い

介入内容と処方変更内容

介入内容 (人)



処方変更内容 (人)

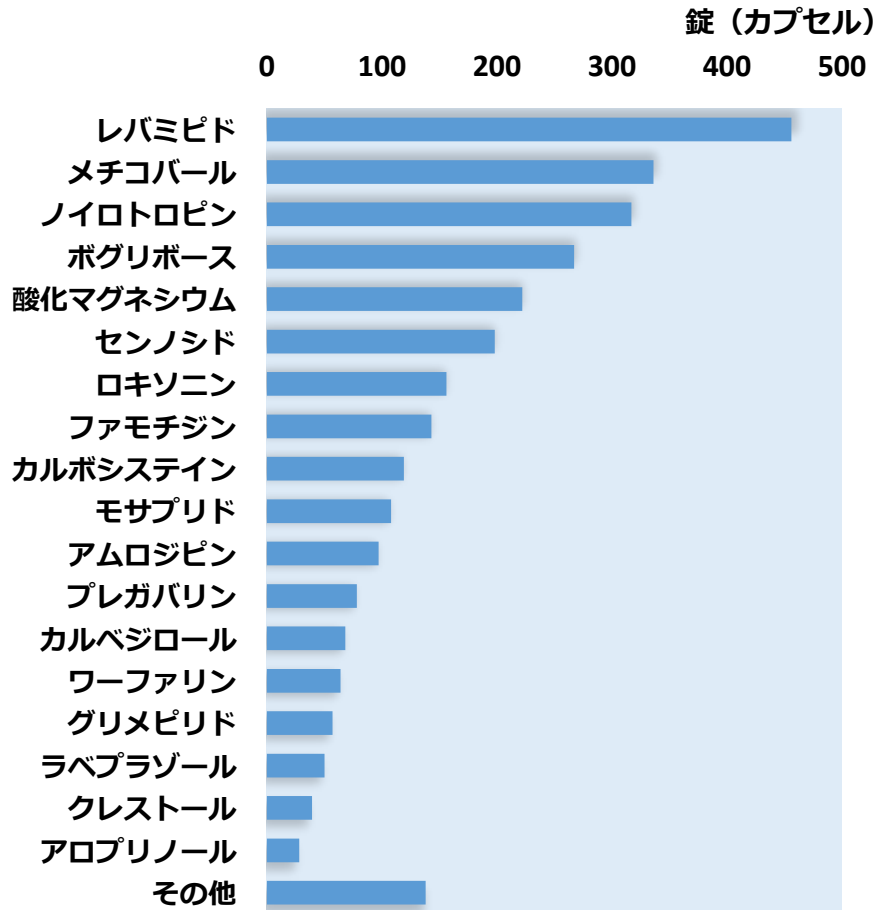


※「高齢者に対して特に慎重な投与を要する薬物リスト」を基に提案・変更

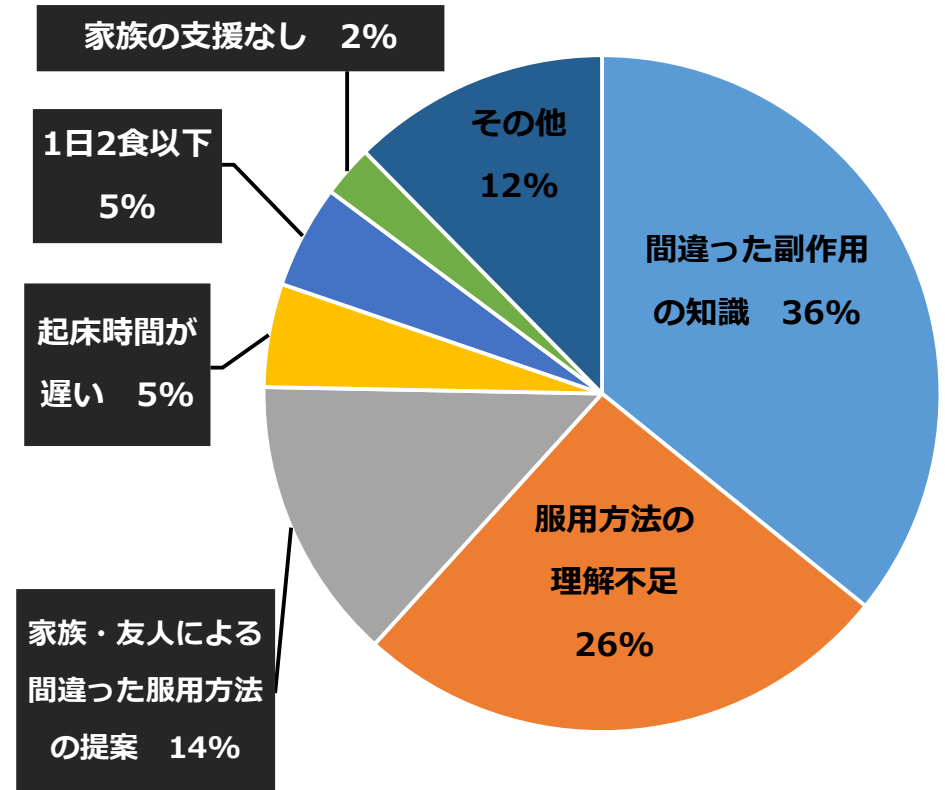
- ・ 残薬調整、用法変更および重複投与薬の中止は、処方変更され易かった
- ・ 「高齢者に対して特に慎重な投与を要する薬物リスト」に該当する薬剤の処方変更の提案は、受理されにくかった

残薬状況と原因

残薬数

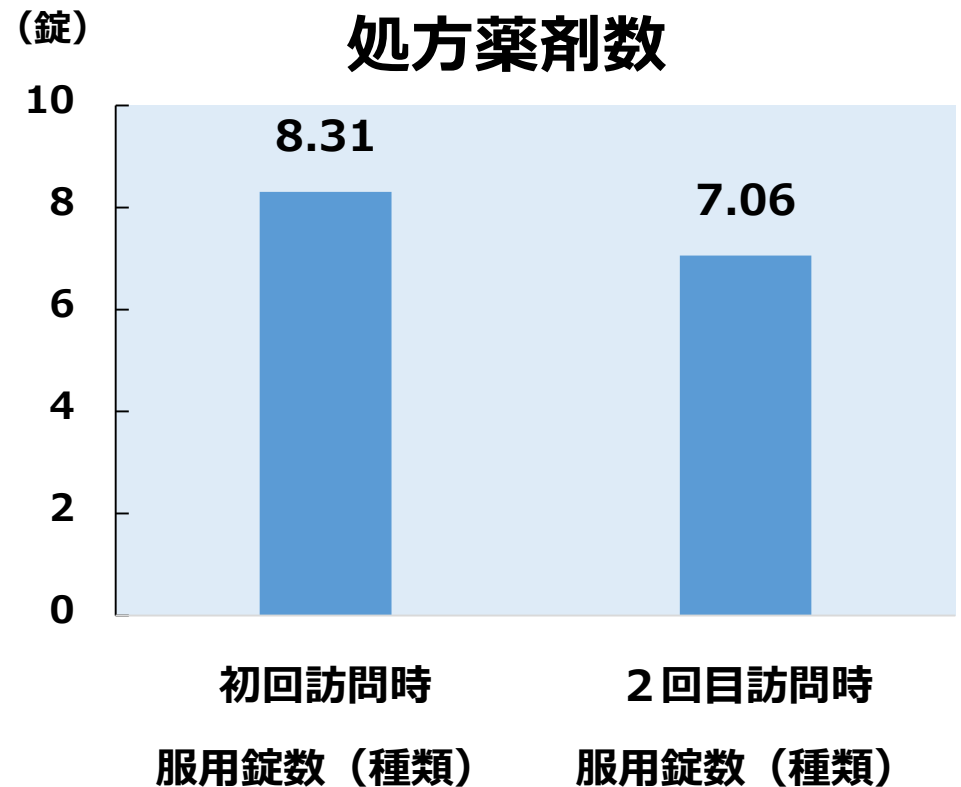
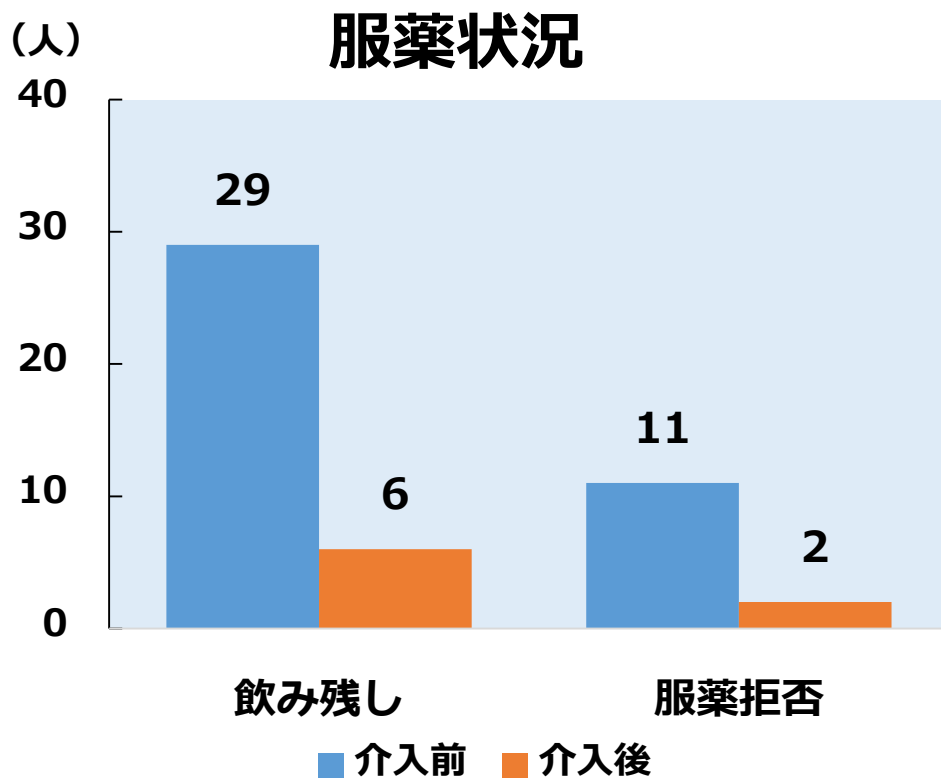


残薬の原因



- ・ 服用回数が多い薬剤ほど、残薬数が多い傾向にあった。
- ・ 間違った副作用の知識や服用方法の理解不足が残薬の原因の半数以上を占める

服薬状況・処方薬剤数の推移

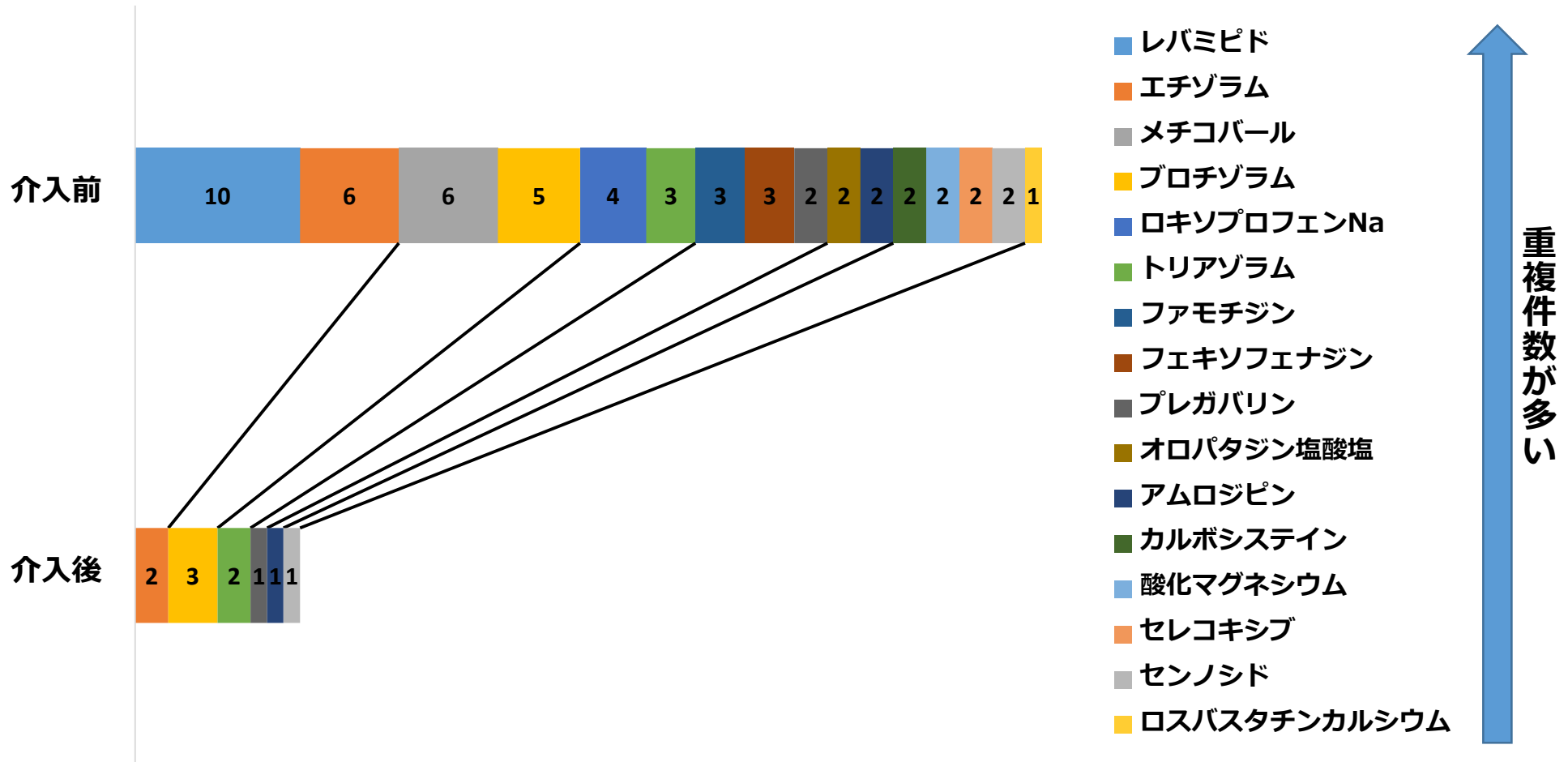


- ・ 介入後は、飲み残し・服薬拒否が減少した
- ・ 服薬錠数は、平均8.31錠から7.06錠へ減少したが、有意差は得られなかった



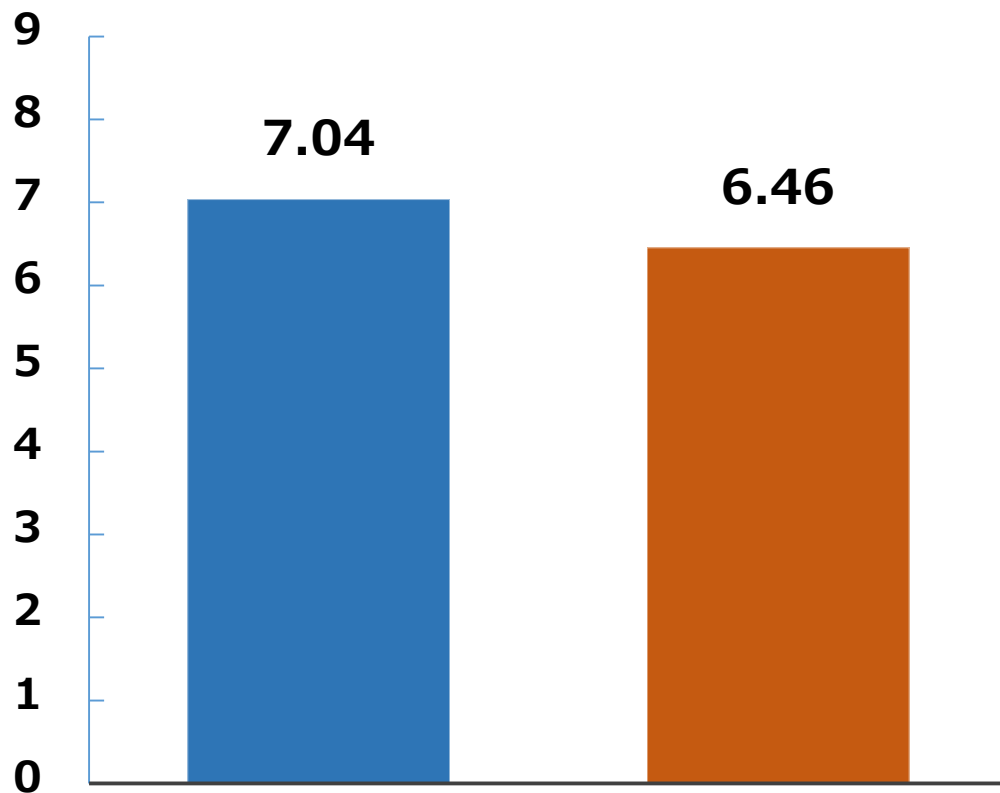
残薬は減らすことが可能だが、単純に処方薬剤を減らすことは難しい

重複投与への介入



- ・ 胃薬、抗不安剤・眠剤およびビタミン剤の重複投与が多かった
- ・ エチゾラムやブロチゾラム等の抗不安薬、睡眠導入剤は継続事例が多かった

F R I の推移



初回訪問時

2回目訪問時

FRI

FRI

- ・ 服用錠数の減少により F R I が減少した（有意差なし）
- ・ 3ヶ月後の介入までに転倒した対象者は11名、転倒防止効果は不明

Fall Risk Index (FRI)

		点数
過去1年に転んだことがありますか	はい	5
歩く速度が遅くなったと思いますか	はい	2
杖を使っていますか	はい	2
背中が丸くなってきましたか	はい	2
毎日お薬を5種類以上飲んでいませんか	はい	2
		合計

該当する項目を合計して、6点を超える場合は、転倒のリスクが高くなる。

Fall Risk Index(FRI).鳥羽研二(監修).高齢者の転倒予防ガイドライン.メディカルビュー社、P2-5,2012年.より引用

まとめ

- **通常の投薬業務だけでは、服用方法や副作用の知識が十分に伝わっていない可能性がある。そのため、服薬指導を充実させ、投薬後もフォローできる体制が必要になると考えられる。**
- **患者宅を訪問することで、生活習慣を把握することができ、服薬コンプライアンスの向上を図ることができる。**
- **服用薬剤の見直しだけでは、転倒予防にはつながらなかった。**



ご 静 聴



あ り が と う ご ざ い ま し た 。

